

2025年 年頭所感

総 長 日高 義博



明けまして、おめでとございます。今年の正月は、専修大学が箱根駅伝に72回目の出場を果たしました。母校の襷を掛けた選手たちが力走する姿を見ると、心が熱くなります。今年も、正月の箱根路をはじめとして、専修人が一体となって応援できる場が多々

あることを願いながら、新春を迎えました。
大学を取り巻く状況は、大学進学者数の激減を始めとして、入学定員規制、学生・教職員数の適正化など年々厳しさを増しています。2040年問題を視野に入れた対策が急務です。
明治維新後、近代の高等教育機関の一番バツターとしてスタートし、旧制大学を経て今日に至っている専修大学としては、大学統廃合の厳しい時代にあっても、持続的発展を期さなければなりません。

オール専修の力結集し邁進

理事長 松木 健一



令和7年の幕が上がりました。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新春の箱根路で「S」の字を胸に最後まで健闘した陸上競技部の勇姿は、学生、全国の校友・育友、教職員等に勇気を与えてくれました。専修人の心が一つになって送った声援は、選手たちにも届いたかと思えます。今大会の経験

を活かして次年度のさらなる飛躍、活躍を期待しております。
昨年11月の役員改選を経て新たな役員体制となりましたが、大学を取り巻く環境が厳しさを増す中、教職員が一体となって大学のブランド力向上に取り組み、さらなる発展につなげていきたいと考えております。

今年、本学は創立146年を迎えます。「質実剛健・誠実力行」を学風に、建学の精神として「社会に対する報恩奉仕」を、21世紀ビジョンとして「社会知性（Social Intelligence）の開発」を掲げ、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に、これまでに32万人

創立者たちが高等教育にかけた熱き思いは、綿々と受け継がれ、現在、21世紀ビジョン「社会知性

は拓けるでありましょう。年頭にあたり、総長としてその意を強くするところであります。

私学の場台、キャンパスに学生がいなくなれば、大学は消滅します。教育・研究の質を高めることは当然として、学生の目線から見えて魅力あるキャンパス、キラリと光輝いている大学であることが極めて大切です。私立学校法の改正によって、学校法人専修大学寄附行為の大幅な改定作業を行いました。大学の精神に基づいた私学運営のあり方を変更するものではありません。大学の総合力において「私大10位以内に入る」という目標に向けて、今年もオール専修の力を結集し邁進する所存です。

余の卒業生を社会に送り出してきました。
昨今の18歳人口の減少により、私学の継続性が危ぶまれています。しかし、そのような状況下にあっても、本学は教育環境の改善や学生サービスの向上に努めていかなければなりません。そのためにも、国際性、先進性、開放性、実践性の四つの視点を意識した大学づくりが重要であると考えています。

余の卒業生を社会に送り出してきました。

昨今の18歳人口の減少により、私学の継続性が危ぶまれています。しかし、そのような状況下にあっても、本学は教育環境の改善や学生サービスの向上に努めていかなければなりません。そのためにも、国際性、先進性、開放性、実践性の四つの視点を意識した大学づくりが重要であると考えています。

例えば、学生がいつでもどこでも支援・指導が受けられるようにインターネットやAI環境の構築は急務です。さらに、グローバル戦略は重要な課題になると考えています。留学生の積極的な受け入れや、本学学生の海外留学等の比率も高めていかなければなりません。

例え、学生がいつでもどこでも支援・指導が受けられるようにインターネットやAI環境の構築は急務です。さらに、グローバル戦略は重要な課題になると考えています。留学生の積極的な受け入れや、本学学生の海外留学等の比率も高めていかなければなりません。

「師資相承」の具現化目指す

学 長 佐々木 重人



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2025年を迎え、当職が特に取り組むべき課題として考えていることを以下に記し、新年のごあいさつに代えさせていただきます。

1. 「2026（令和8）年度全学部カリキュラム改正」の最終調整に万全を期すること
本年は、26年度新カリキュラムの円滑スタートに向けた最終調整

（ベル）に全学部認定を受けました。当職は、さらに「同認定制度（応用基礎レベルプラス）」にチャレンジする学部の取り組みを支援いたします。特に、ネットワーク情報学部の先導役としての役割に期待したいと思っています。

育）を展開しております。新たに25年度からは、大学院リカレント教育「履修証明プログラム」が開講いたします。当職は、これを機に、本学のリカレント教育の全体像を「SUIリカレント教育アカデミー（仮称）」として見える化を目指します。

6. 「神田神保町カルチャータン」の創出に取り組むこと
神田キャンパスが位置する神田神保町は、古書店街のほかに、グルメ、スポーツ用品店さらには出版ビジネスの集積エリアでもあり、江戸文化の香りも放つ魅力的な学生街として認知されております。当職は、本学発のこの地域への貢献を「神田神保町カルチャータン」の創出と呼び、そのためのあらゆる取り組みを積極的に支援いたします。

3. 「SUIグローバル・スマートキャンパス」を推進すること
学生による学修、課外、および就職等に係る諸活動や教職員による教育研究活動の活性化や効率化を目指して、キャンパスDX「SUIグローバル・スマートキャンパス」創りが進んでおります。当職は、直近の取り組み、AI駆動の「デジタルオンライン窓口（仮称）」の設置に取り組みます。

25年に取り組む七つの課題

の年となります。とりわけ、以下のような新カリキュラムを特徴付ける事項の実現に取り組みます。

●「グローバルスタディ」科目で実現する地球の視野を陶冶する学部教育や「英語による授業科目」ラインアップの充実

●オンライン授業（オンデマンド型）の活用による体育会所属学生に向けた教育支援

●「クオータ制の一部導入」や「インテンシブコース（仮称）」の活用促進

2. 「生田データサイエンスヒルズ」構築を推進すること
「SUIデータサイエンス教育プログラム」は、昨年、文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レ

5. リカレント教育実施体制の強化を図ること
本学の原点ともいえる二部教育のレガシーを受け継ぐため、本学は、学部や大学院においてさまざまな社会人教育（リカレント教

4. 法科大学院と法学部の教育連携システム「法曹コース」をサポートすること
24年度より、法学部に「法曹コース」が設置されました。本コースは、法学部を3年間で修了した後、直ちに本学の法科大学院（既修コース2年間）への接続を行うことで、学生が効率的に司法試験にチャレンジするための教育連携システムです。当職は、本コースの魅力積極的に広報し、その実績づくりに取り組みます。

7. 本学創立150周年（2030年）への道筋をつけること
本学を取り巻く環境は、日々変化し、18歳人口の減少や各種の規制などの問題も入り組んでいます。絶え間なく最適解を求める努力が必要です。当職は、本学創立150周年を迎える2030年での教育研究体制をイメージし、全学レベルで議論し始めるための役割を果たしてまいります。

今年も本学へのご支援、よろしくお願い申し上げます。

※第101回箱根駅伝に本学陸上競技部が出場いたしました。皆様の応援、ありがとうございます。